The Dr.Steven Greer Podcast　Episode 21　（2026.6）
Disclosure Day　Upcoming CE5　Event in Virginia

私は、スティーブン・スピルバーグ監督の新作映画「ディスクロージャー・デイ」の公開前試写会に VIP 招待を受けました。（注釈：アメリカでの公開は 2026 年 6 月 12 日～、日本では同年 10 月 1 日～）とても興味深いものでした。実際、色々な意味でうれしい驚きがありました。予告編はホラー映画みたいですが、スリラー的要素があるからです。

彼は「ETS（地球外知的生命体）」が、実際には非常に穏やかで、思いやりがあり、共感的であると正確に描写していますが、それは接触した数人の人々の視点を通して行われ、人々が怖がらないように、地球外生命体として現れた動物という、UFO 神話の世界に陥るような方法で行われています。実際にそのようなことが起こります。しかし、その多くは「UFO サブカルチャー」の神話のようなものです。

もう一つの間違いは、彼が「一種類の種族」しか描写していないという点です。これは完全に間違っています。皆さんもご存じだと思いますが、1960年代にクリフォード・ストーン軍曹が「墜落機回収チーム」に所属していた当時でさえ、すでに「69種類の地球外生命体が記録」されていました。もちろん、それはもう60年近く前の話です。ですから、今は確かにそれよりもずっと多いですが、同時にこれはハリウッド映画なので、ストーリーラインを単純に保つ必要があります。

彼らがかなり正確に描いているもう一つの点は、映画の中で、「軍産複合体」の請負会社として登場する会社が、UFO　や地球外生命体に関する「秘密プログラム」の保有者であり運営者であると示し、述べていることです。それは単一の会社ですが、ハリウッドがもちろん非常に大きな企業の利害関係の集合体であるという事実を表現する方法だと思いますが、映画の中で、本当に悪い人たちは「社会病質者」で、「冷酷な企業や諜報機関の手先」として正確に描写しています。ですから、その部分も、私たちが何十年にもわたって明らかにして来たことと大きく異なっていました。

そして、映画全体が、私たちが「情報公開（ディスクロージャー）」に関して行ってきたことへのちょっとした言及のようでした。スピルバーグ氏が、私がその用語を作り出し、90年代に情報公開運動全体を始めたことを、どの程度知っているかは、私にはわかりません。彼は知っていると思いますが、「ディスクロージャー・プロジェクト」への帰属表示はありません。同時に、今名前が出せないのですが、映画に出てくる「この企業」は、あるシーンで「アメリカ政府」や「軍」、「諜報機関」の「選ばれた人々」と協力している様子が描かれていますが、これも正確です。

しかし、映画の中では、1970年代にリチャード・ニクソン大統領がジャッキー・グリーソンを連れて、「地球外生命体の遺体など」を見せたという話が出てきますが、実際にそれが起こったことを証言してくれる故人の情報源になります。そして、もちろん、その直後、彼らは彼の弾劾手続きを開始しました。映画ではそのことについては触れていませんが、知っていただきたいのは、リチャード・ニクソンは単に悪党だったから弾劾されたのではなく、もちろん彼は政治家であり、両者ほぼ同義ですが、彼がこの情報を公開しようとして、ジャッキー・グリーソンなど、感銘を与えたい人々に証拠を見せ始めたからです。そしてその時、彼らは彼を締め付け、ウォーターゲート事件を仕組んだ、そして実行された。しかしもちろん、ウッドワードは海軍情報部員でもあり、魔法のようにワシントン・ポストの新人記者となり、リチャード・ニクソンのウォーターゲート事件に関するスクープを情報提供者から入手しました。今日の基準からすれば、それは「腐敗した政治サークル」で起こっているスキャンダラスな出来事に比べれば、些細な罪悪感に過ぎません。しかし、それは彼（ニクソン大統領）を失職させました。

私には他の情報源がいて、ニクソンは「1954年」にアイゼンハワー大統領が計画したようにこの情報を公開すると誓っていたと教えてくれました。そして彼らは「いや、そんなことはさせない」と言いました。そしてその時点で、50年代から既に存在していたものが大統領からこの問題に対するあらゆる統制と

監督を奪おうという裏切りという点でさらに深刻化しました。それはごく簡単に触れているだけですが、実際には事実に基づいています。つまり、これは SF 映画ではあるものの、非常に「事実に基づいた要素」がたくさんあるということです。そして、それは観客のほとんど、いや、私たちが座っていた観客の誰も、そのどの部分が実際の出来事や事実を描写しているのか、全く見当がつかなかった作品の一つだったと言えるでしょう。

さて、もう一つ非常に興味深い点は、この映画の中で、地球外起源の「意識マインド・インターフェース技術」の一種が使用されている様子が描かれていることです。この技術は、この会社のある種のファシスト的な警備責任者によって、「不正かつ暴力的」に使用されています。その男は、私の著書「隠された真実・禁断の知識（邦訳書：UFO テクノロジー隠蔽工作）」を読めばわかるように、ドクター・デスと見た目も行動も全く同じです。それが誰なのかは、ご自身で調べて見てください。何度か漏らしてしまいましたが…。ここでは触れませんが、ドクター・デスは「社会病質者」あるいは現実世界では「精神病質者」であり、そういった種類の作戦に関わってきた人物です。そして私はこのことについてかなり詳しく話したり書いたりしてきましたが、「意識や精神と相互作用する」非常に高度なテクノロジーの使用は、本当に「邪悪で悪魔的な」ものであり、スピルバーグの映画では、人間がそれを行っていると描かれていますが、それは真実です。その部分は非常に正確です。あまり正確ではない部分としては、使用されているすべてのテクノロジーが、地球外生命体から直接入手したものの「リバースエンジニアリング」されていないものとして示されていることです。

「ディスクロージャー・デイ」と「エイジ・オブ・ディスクロージャー/ドキュメンタリーのはずなので私は〝エイジ・オブ・デセプション〟」と呼んでいます」 この両方で、私が非常に興味深いと思う点の一つは、80年後、映画の中では機体が回収され「リバースエンジニアリング」されたと言っているにもかかわらず、アメリカや他の国が「人工の運用可能な UFO を保有していること」について何も示していないことです。そしてそれらが「欺瞞作戦や偽旗作戦」でどのように利用されて来たか、そして、これは触ると感電してしまうようなタブーであり、映画が製作されず、多額の資金も得られず、配給もされないだろうと私は考えています。何故なら、私が「人工 UFO」と「その場所」について説明し、彼らがその方向を見始めると「脅迫」されたり、「警告」を受けたり、それを見たり話したりするのは「危険だ」と告げられたりしたという複数の国会議員が私に話してくれたからです。つまり、この映画では、物語のその部分と「真実」が完全に省略されています。おそらく彼がそれをそこに入れたら、大手流通システムを通じて配信することができなかったからだと思います。

何故ならそれは「禁断の知識」だからです。禁じられた知識とは、「地球外生命体が存在すること」や、彼らの「乗り物（UFO）を手に入れ」、彼らの「遺体を解剖」したり、「生け捕り」にしたりした、ということではありません。それは映画の終盤で描かれています。見ればわかります。しかし実際には、それはこの物語の非常に重要な部分です。何故なら、1950年代後半から、これらの「人工 UFO」や、「意識」に影響を与え、幻覚状態などを引き起こす非常に高度な「電子戦システム」が、「エイリアンの脅威をシミュレートするため」に使用されて来たからです。しかし、この映画では、それは脅威として描かれていません。彼らは私たちを心配しているかのように振舞っています。

そして、この一連の「情報公開イベント」、「情報公開日」は、私たちが核戦争、世界大戦に突入しようとしているという背景の中で行われています。世界中で起こっていることを考えると、私たちはある意味でその前夜にいると言えるので、これは興味深いことです。でも、地球外生命体は警告していると思うし、ET が「聞いてください」と言ってカットされ、そこで映画は終わります。ですから、これは非常に興味深い映画であり、一般の人々にとって非常に有益な要素が数多く含まれていると思います。

確かに、私が懸念していたのは、予告編が非常に不気味でぞっとするような内容だったため、地球外生命体を悪意のある存在として、あるいは JD ヴァンス（現・副大統領）が語ったような悪魔的存在として描いてしまうのではないかということでした。しかし、そうはなりませんでした。表面的な観察者にと

っては、こうしたニュアンスが理解しにくいかもしれませんが、私の視点からすると、うれしい驚きと少なからず安堵を感じました。率直に言って、地球外文明に対する唯一の誹謗中傷反対派であることに少しうんざりしていたからです。何故なら、「地球外文明を、悪魔的、邪悪、侵略的、あるいは脅威的な存在として」描くことをしていない人が世界には誰もいないからです。彼らは決してそうではありません。しかし、彼がこの作品でそれを避け、地球外生命体を実際には正反対の働きをしていると描写したことは、つまり、「人間の状況や私たちがどこに向かっているのか」について、非常に思いやりがあり、懸念しているということだと思います。なので良かったと思います。そして、ご存じのように、情報公開が公式に行われようとしているこの重要な時期に、こうしたハリウッド映画を見に行く人の数を考えると、彼が「邪悪なエイリアン侵略神話」に灯油を注ぐのではないかと少し心配していました。ですから、それはよかったと思います。

そして、もう一つ重要な点は、彼が、悪役は腐敗していて非常に傲慢な宇宙の支配者であり、テクノロジーを奪い、それを悪用し、秘密にして、権力を乱用し、自分たちを法の支配や憲法よりも上だと考え、明らかにファシズム的な警察国家の悪役として映画に登場した人間であることを、はっきりと描写したことです。

それで、全体的に見て、その観点からするとかなり良いと思います。もちろん、いくつかの条件付きですが、スピルバーグ氏のこの分野に関する知識は限られていることは承知していますが、彼は、ハリウッドの主な目的である、お金を稼ぐためにハリウッドのスリラー映画を作らなければならないのです。つまり、ハリウッドの目的は主に大金を稼ぐことであり、スピルバーグ氏のような億万長者にとってそれが主な目的です。

私が心配していたもう一つの理由は、私たちのチームのメンバーで、名前を伏せてほしいと頼んだ人物が、何十年も前に「CIA（アメリカ中央情報局）」の人たちと会議に出席していたのですが、次の会議のために待っていたのがスティーブン・スピルバーグで、彼と「CIA」とのつながりは知られていました。「CIA」や他の部門には強硬派がいて、これを国家安全保障への脅威として描こうとしているのではないかと少し心配していました。この映画がそういう方向に展開するのではないかと少し心配していましたが、そうはなりませんでした。

それで彼らは、私たちを観察し、大規模な「熱核戦争」のような最悪の事態を防ごうとする「善の勢力」として描かれていました。だからこれは興味深い点だと思いますし、これはずっとこの映画について私が懸念していたことですが、彼はこの映画で非常にうまくやったと思いますし、人々は私が提供しているような脚注のようなものを視点として、この映画を見るべきだと思います。

描かれている「地球外生命体のテクノロジー」は、実際にはかなり正確で、私が話した「マインド・テクノロジーのインターフェース」とほぼ同じで、「ヴェーダ（古代インドの聖典）」では「シッディ」と呼ばれていて、クローキングや空中浮遊など、より高い意識状態に存在することが知られているあらゆることを行うものです。彼らが手に持っていたこの「ET（地球外生命体）デバイス」は、それを所有する人が「テレパシー能力」や「サイオニックタイプの能力」も行うことを可能にします。

また、映画の主人公の一人である男性が、あらゆる特典を持って、この企業から脱走するというエピソードもありました。言い換えれば、「80年間にわたる接触と回収作戦の記録」、その他すべての歴史の全アーカイブです。これは非常に近い内容なので、きっとそれが採用された理由でしょう。約1年半前、皆さんも覚えていると思いますが、現大統領（トランプ）の就任前に、「UFO墜落事故の回収」やその他の作戦を扱っている「6つの秘密施設」を代表するグループが、まさにそのようにして私たちに大きなファイルを手渡そうとしていました。最終的に彼らは、それは壊滅的な情報漏洩になると告げられましたが、それは嘘でした。それらは最終的に、非常に悪質な人物たちの手に渡ってしまいました。それは起こりませんでした。

ここで、私は国民全体に向けて非常に直接的なことを申し上げたいと思います。それを実行するには、複数の人からなるグループが必要です。大統領らは前進することを決定しました。議会はこの件に関して、全員の「秘密保持契約」を免除しようとしていることは知っています。彼らは私の声を聴き始めていると思います。法執行機関（警察）は、何年も前からそうしているのです。これらのプログラムは「違憲」であり、「反逆行為」であり、「国家安全保障の宣誓や秘密保持契約」に拘束されていると考えている人は、そうではないということです。私が言うことをよく聞いてください。

これらのプログラムは、最高レベルでは「犯罪者集団」によって運営されており、彼らはアメリカ合衆国および彼らが活動する他の国々に対して、「反逆行為」を犯しています。「プロジェクト全体が犯罪行為」に該当するため、秘密保持契約には法的効力はありません。これは事実です。つまり、私が求めているのは、映画に出てくるダニエルというキャラクターを見て見ると、彼はまさに、1年前にグループがやりかけたことをやったということです。しかし、私はそれが実現する必要があると思います。私たちは「ブロックチェーンシステム」を開発しました。そこにこれを配置すれば、削除することはできず、全世界がそれを見ることが出来ます。わたしは、人々はこのような確固たる証拠に基づいて離反する必要があると考えており、そのための直接的な呼びかけを行っています。匿名または秘密裡に行うことも可能です。つまり、実行者が特定されることなく行うことが出来ます。

1年半前にこの計画を実行しようとしていた前任のチームリーダーの過ちの一つは、彼が世間に知られることを望んでいたことです。とんでもない間違いでした。戦術オペレーターや特殊部隊員、統合特殊作戦司令部員、あるいはこのレベルの企業で働く非公式のカバー担当者が、公の場に出る理由はありません。何故なら、個人は重要ではないからです。私は重要人物ではありません。重要なのは「知識と証拠」であり、アメリカ政府は決定的な確固たる証拠や証明に関してなかなか行動を起こそうとはしません。誰かがそのような証拠、つまりあらゆるもの、物理的な資料も含めて、「内部告発者」として合理的に脱退することで、システムにさらなる圧力をかける必要があると思います。そうすれば、私たちが持っている「ブロックチェーンシステム」を通じてそれを公開できるので、削除されることはありません。それは確かにとても大胆な行動です。

それは、1年半以上、2 年以上前に計画していたことです。しかし、その作戦全体が阻止され、中止されてしまいました。それは非常に大きな間違いでした。振り返ってみると、関係者全員がそうだったと認識していると思いますし、この資料を私たちに渡すはずだった人物にとっては、結局は大惨事となりました。映画を見ると、この企業で働いていたダニエルという人物が登場します。ダニエルが必要です。私たちには、実際にそれをやってくれるダニエルという人物が何人もいましたが、最後までやり遂げて、「騙されない本物の人物」が必要です。

さて、映画の中ではもちろん、彼らはダニエルという男と、彼と接触していた別の人物を殺そうとしますが、実際のところ、私たちは今、そのような人物を引き渡して監視し、保護することが出来る人たちがいるのです。そして、私たちはこれを急いで実行しなければならないと思います。何故なら、私が懸念していることの一つは、「ディスクロージャー・プロジェクト」の情報アーカイブに保管されているような些細な文書を再公開したり、空の光やあれこれといった漠然とした映像を公開するだけでは不十分だということです。

もう一つの問題は、公開された動画の中には、実は我々が開発した高度な「リバースエンジニアリング技術」による「人工のET技術」を映したものが含まれているということです。それはまるで人間であるかのように提示されていますが、人間ではない、あるいは地球外生命体であるかのように…。とんでもない間違いです。ここで、それをリリースする人たちがそもそもこのことを知っているとは想定していません。何故ならこれは非常に専門家主導の分野だからです。言い換えれば、政権や議会、あるいはこうした「機密解除プログラム」などで提示される資料を、この分野に不慣れな人々が目にするということ

です。彼らはこれを知らないでしょう。彼らがこれまで理解するのに最も苦労して来たのは、人間の企業プログラムが、「星間技術に基づいたデバイスや機械」などを「リバースエンジニアリング」し、運営している組織が、「人間の組織」によって「犯罪的」に完全に利用されているということです。それもまた大きな問題です。つまり、私が訪れたり、他の人を連れて行ったり、その後議会議員を引き渡してそのことを知らせたりしたこれらの「秘密施設」の最高幹部でさえも、彼らは私たちの技術が非常に進化したため、彼らにとってもほとんど区別がつかなくなっていると言っています。

ご存じのように、「機密区分化」は現実のものです。「高度に細分化されたプログラム」とはどういうものかを、誰もが理解する必要があることはご存じでしょう。すぐ隣の個室で誰かが働いていても、その人が何をしているのかは分からないでしょう。個室は区切られていて、立ち入りが制限されています。そしてもし誰かが自分の担当区域から抜け出したり、本来立ち入るべきではない区域に入ったとすれば、終身刑になるか、反逆罪で裁判にかけられて殺される、と人々は理解しています。

例えば、最も経験豊富なオペレーターの一人が、アフリカ沿岸の島で回収作業を行った際、ひどい放射線熱傷、あるいは電離放射線と思われる症状に見舞われました。さて、ここで「CIA」の手先であるゲイリー・ノーランが、最近になってこれらの負傷は、墜落機回収チームによる地球外機器の回収の結果であると公言しました。彼はこの仕事でお金をもらっているのです。彼はスタンフォード大学の教師で、「アタカマ・ヒューマノイド（注釈:グリア博士の映画〝シリウス〟に出ている）」に関して私たちを裏切り、その人型生物に関するすべての結果を偽造したのです。さて、彼は今、このようなことをする地位に昇進し、このような馬鹿げた発言をしていますが、実際には、そのような回収作業で負傷した人々の多くは、「核兵器や原子力発電システムを搭載した人工物」を回収していたという事実を全く考慮に入れていません。皆さんにとって典型的な例です。

皆さんもご存じだと思いますが、弊社が発行している、「図解入りの開示ガイドブック」を入手してください。そして、80年代に起きたキャッシュランドルーム事件を見て見ると、あれは人間が回収した地球外生命体の乗り物でした。それは、ネリス空軍基地とネバダ試験場から飛行しました。彼らは、その「惑星本来のエネルギーシステム」、つまり地球外のエネルギーシステムを機能させることができませんでした。そこで彼らは愚かにも原子力発電所を建設し、電力システムを稼働させて飛行機を飛ばそうとしたのです。それで、試験飛行中にヒューストンの北の地域上空を飛行していたところ、機械的な故障が発生し、原子力発電システムの一部が破損し、放射性物質が、車に乗っていた罪もない人々、5歳の男の子とその母親と叔母と思われる大人2人に漏れ、彼らは重傷を負いました。さて、その件の主任調査官である空軍士官の特別捜査官、リチャード・ドディ氏によると、実際には彼が主任調査官であり、それは4人の人間パイロットが載った地球外生命体の乗り物で、アメリカ製の「人工核エネルギーシステム」が搭載されていたが、それが故障したとのことです。つまり、それはもちろん違法です。この組織が行っていることはすべて違法です。それが肝心な点です。そしてもちろん、彼らは「UFOサブカルチャー」が、それが地球外生命体の乗り物であり、不幸な民間人を凶悪に毒殺し、放射線を浴びせたのだと信じることを喜んでいました。つまり、いつものように、失敗した人類のミッションはエイリアンのせいにされたということです。さて、これが今起きていることです。しかし、これらのオペレーターのことを覚えておいてください。

例えばあなたが、非公式の身分を偽って大手航空宇宙企業と契約を結んでいるとしましょう。しかし、実際には統合特殊作戦司令部などの秘密部隊で働いている場合、作戦の詳細すべてを知ることはできないでしょう。君の仕事は、そこへ飛んで行って、その物を手に入れて、持ち帰ることです。わかった、でも、私のような人間が少し介入しようと思います。私はその違いを理解しているし、「改造された人工物と地球外生命体の違い」も理解しています。地球外生命体の乗り物は、1940年代や50年代の原子力発電所から動力を得ているわけではありません。つまり問題は、こうした情報検索担当者が、素晴らしい学歴を持っているという理由だけで、ゲイリー・ノーランのような完全な道化師に引き渡されてしまうことなのです。まあ誰が気にするか、分かりますよね。正直に言うと、学問は何もできない人たちを全

員集める場所なのですが、それは事実です。人々が認識すべき重要なことは、ゲイリーはそれが何なのかを知らないだろうということです。しかし、私が事後報告でインタビューしたオペレーター自身は、もしかしたら地球外生命体の仕業かもしれないと考えていました。彼はそれが何なのか知らなかった。私は、いや、それは彼の仕事じゃなかった、彼の仕事はそこに飛んで行って、その厄介なものを手に入れることだったんだ、と言いました。

だから、人々はこの「仕組みを理解する」必要があります。それに、戦術オペレーターだからといって、これらのプログラムに関するあらゆる情報を読み込んでいるわけではありません。それは非常に「分断」されていて、情報公開が進むにつれて大きな問題の一つになると思うのですが、非常に注意しなければならないのは、その多くが人為的な出来事であるにもかかわらず、エイリアンの出来事として提示されるからです。しかし、正直に言うと、そういっている人たちは、皆さんが今聞いたことを知らないかもしれません。おそらく、議会の誰も深くは知らないでしょうし、大統領は間違いなく知りません。つまり、そういった知識が不足すると、物事を誤って分類したり、誤って識別したりしてしまうという問題が生じるのです。そして、それが実際に起こっていることなのです。そして、その一部は意図的なものです。ゲイリー・ノーランのような人にこうしたケースを任せる人は、彼が学術的な見解を示すことを承知の上でそうしているのです。地球外の装置を回収した人がひどい怪我を負ったというのは、全く事実ではありません。しかし同時に、私たちは警戒を怠らず、そうした動きに反論し、ちょっと待って、そんなに急がないで、と言わなければなりません。

そして、こうしたことがすべて明らかになり始めたときに、私たちの最大の課題の一つは、このリリースの一つ一つを精査して、これは実際にはハッシュランドルームのような人為的なイベントだった、ということだと思います。あれは正真正銘の地球外生命体の装置だった。現時点では、それらのいくつかについては、私たちは知らないと言えるかもしれません。その判断を下すにはデータが不足していますが、少なくとも分析に含める必要があります。そして、「改造された地球外生命体の装置による人工飛行」があったことや、「地球外生命体の機械のように見える人工装置や宇宙船が存在すること」を理解していないのであれば、何が何なのかを完全に解明することは決してできないでしょう。少なくともその基本的な情報は持っておく必要があるのです。しかし、それが「隠蔽」されている点なのです。

最も公開が抵抗されているもの、そして大統領や議会議員、そしてもちろんスピルバーグの映画（ディスクロージャー・デイ）の完成、またばかげた映画「エイジ・オブ・ディスクロージャー（開示の時代）」に、圧力がかかっていることは事実として知っています。これは全てにおいて、オチを完全に覆い隠してしまう。何故なら、彼らは皆、40年代から何兆ドルものお金をかけて、これらのものを「リバースエンジニアリング」してきたというと言うだけで、そこで止まってしまうからです。そして、これがその結果です―とは言わない。だから「ディスクロージャー（情報公開）プロジェクト」ではその点を明確にする必要があります。つまり、技術に驚異的な進歩があったことを認め、それらの技術は、「犯罪組織」の手に渡り、「人身売買」「偽の宇宙人誘拐」「拷問」「麻薬密売」、あらゆる種類の悪質な犯罪行為に使われて来ました。そして、組織として、真実に関心を持つ私たち全員として、この「違法な企業陰謀団」が望む「偽の情報公開」ではなく、「真実」に関心を持つ者として、私たちはその点に留まらなければならないと思います。そうしなければ、これらUFO事件の真の被害者である人間が救済されないままになってしまうからです。

人々はよく、私は同情心がない、とか、誘拐の被害者はいないと思う、と言う。私は反対です。これらの技術が罪のない人々に対して使われて来たことは事実として知っていますが、それをやっているのは「地球外生命体ではなく人間」です。そして、これが重要な点だと思います。ご存じのように、すべては、50年代後半に始まりました。つまり、70年もの間、「リバースエンジニアリング」された地球外生命体の技術が、「心理戦の価値」のために罪のない民間人に対して「違法」に使われて来たのです。人々は宇宙からの脅威があると信じていますが、もちろんそれは「軍産複合体」や「金融界の社会病質者たち」の「陰謀団」に利益をもたらします。ですから、「UFOサブカルチャー」はおそらくこれに追いつかなけ

ればならないでしょうが、議会やホワイトハウス、そして世界中の他の指導者たちは間違いなく追いつかなければなりません。何故なら、彼らはこれについて非常に表面的な理解しか持っておらず、正しく行うためにはもっと深い理解が必要だからです。そして、正しく行わなければ、それはずっと秘密にして来た「陰謀団のディープステイト」の「犯罪工作員たち」の思う壺にはまることになります。

ロケットを発明したヴェルナー・フォン・ブラウン博士によれば、彼らの長期的な計画は、アドルフ・ヒトラーは常にそれを異星人の脅威として提示しようとしており、実際にそうして来ました。誰もが「ブルービーム計画」はいつ始まるのか？と尋ねるが、私は、もう始まっている、と答えました。50年代後半に始まったんだよ、と。つまり、みんな、いつもバックミラーばかり見ています。私たちは「前を見始めなければ」なりません。そして今、これらすべてが公式に明らかにされています。これは演出された部分であり、これが真実であるというように、正直に構成されなければなりません。私たちは前に進むことが出来ます。しかし、隠蔽を隠蔽するだけではいけません。それは開示ではありません。それは「偽の開示」です。そして私たちは「真の開示」をする必要があります。

私たちは議会のために、何が作られ、何が…というマニュアルを作らなければならない。実際、私たちはそれを作りました。それは皆さんが購入できるブリーフィング文書にあります。それは「ディスクロージャー・ブック（開示本）」にあります。それは、90年代にさかのぼる私たちの資料にあります。私のチームのメンバーや、90年代初頭に私が持っていた「最高機密の内部告発者たち」は、私たちがこの技術を運用していて、それがどのように使われているかが分かったのです。「誘拐」や「牛の切断」、その他あらゆる恐ろしいことをシュミレートするのに使われていることを知ったのです。

「意識や精神とインターフェース」する「サイコトロニック」とか「電子機器」とでも呼ぶべき奇妙なものが、スピルバーグの映画に出てくるドクター・デスのような人物によって、非常に悪質な方法で使われて来たのです。映画では、ドクター・デスは完全に邪悪で落ちぶれた老いぼれとして非常によく描かれています。でも、あの人物の描写は本当に素晴らしいと思います。何故なら、私は本物のドクター・デスを知っているからです。でも、今は80歳代か何かだと思います。でも、こういうことを考えると、私たちは常に注意を払い、こういう重要なことを見落とさないようにしなければならないと思います。

私にとって、この物語の最も重要な部分は、私たちが宇宙で孤独ではないということではないと思います。IQのある人ならだれでも体温、体質など…もうご存じでしょう。地球外生命体やNHI（非人間 ID）、あるいは今流行の用語は何であれ、それらの多くに帰せられてきたことは、実際に私たち「人間」が行っているのです。そしてそれは、「残虐行為」であり、おおくのひとがそれを「隠蔽」したがっていることは承知しています。しかし私が、国家安全保障関係者や今日私がいるワシントンの人々に言ったことは、「秘密にしておきたい秘密技術」をいったん使用し、それを、罪のない民間人に対して「誘拐」「殺人」「拷問」を含む「犯罪的な方法」で使用した場合、その「秘密を守る権利」は失われるということです。秘密にする権利を放棄したのです。秘密にしておくことはできません。何故ならそれは大衆文化に浸透しているからです。UFOイベントに行けば、なんと90％の人がエイリアンが悪者で、これをやっていると話しています。

そして、最近その医師が発表したように、4つの種族の存在―「宇宙人、グレイ、昆虫型宇宙人、爬虫類型宇宙人、その他諸々」―。もちろんこれは「CIA」のSCOP・UFO学マニュアル101に載っているような話ですが、議会やメディアがそれに「騙されている」のです。だから、私たちは精神的な戦士として真実をあきらめてはならないのだと思います。もしこの大きな「嘘」が真実として明るみに出れば「惑星間紛争」、つまり私たちの文明の終焉の扉が開かれてしまうからです。ですから、これは警告として発信しているのです。多くの人が、複雑すぎると言うでしょう。いずれ乗り越えられる、と私は言いました。神が与えてくれた脳を使って、この問題を解決しましょう。しかし、今さら最初からやり直すには遅すぎます。そして、私たちは毎回そうしなければならないと思います。人間のテクノロジーが何であれ、何をして来たのかという恐ろしいほどの「省略」があり、私たちは介入して、この映画ではこんなことは描かれ

ていない、と言わなければなりません。だから、良い映画だったと言えるでしょう。

でもその点が抜け落ちていました。ヘリコプター、ハンヴィー、SUV、機関銃、そしてドクター・デスというキャラクターが「テレパシー」と「サイコトロニック」で人々を操り攻撃するために使用する「地球外生命体のテクノロジー」が描かれていましたが、それは興味深いものの、人間が開発した、それと「同じ機能を持つ独自のシステム」が存在するという事実が抜け落ちています。地球外生命体のような「宇宙船」や、「重力に逆らう乗り物」も持っています。「非局所的で量子もつれした通信システム」も持っています。エイリアンのように見えるが「エイリアンではない生物も作り出して」います。つまり、誰も語ろうとしない、私たちだけが知っている、あのカーテンのむこうにある恐怖の星座－。たとえ人々が、いわゆる、「誘拐事件」がいつ始まったのか、そのタイムラインを実際に調べたとしても、つまり、おそらく50年代以前には、人々がそのような遭遇、つまり接触をしたという本当の歴史はないのですが、暗くなったのは、私たちがその技術を手に入れ、それを始めたときです。

興味深いことに、40年代と50年代、そして60年代の一部が、「接触の時代」だったというのは偶然ではないと思います。人々が接触をした時代は、「普遍的に美しい」ものでした。そして、「1954年」に政府が首を切り落とされたため、地球外生命体は私たちに「世界平和を実現し、核兵器をなくし、地球上で半分文明化すること」を望んでいましたが、それはこの「陰謀団」によって脇に追いやられ、当時のアイゼンハワー大統領は（注釈:軍産複合体に気をつけろと公言していた。）、蚊帳の外に置かれました。この「陰謀団」は決定しました。地球外生命体が、世界の指導者や大統領に起こったクーデターを回避する手段として、民間人との直接的な接触をますます増やし始めたのはいつだったか、私が知っているのはそういうことです。

それで、私のように、人々は驚くべき接触を経験し始めたのです。そして、それに対抗するために「心理戦作戦」が必要だったと私は考えています。そして、彼らがこれらの「人工UFO」を運用し始めると、「誘拐」と「切断」という時代精神を広め始めました。それは、60年代以降のあらゆる映画、ドキュメンタリー、書籍、UFO会議の定番ネタになりました。そして、70年代以降も間違いなくそうでした。彼らは「CE5（第5種接近遭遇／注釈:地球人と異星人とが直接対話・通信を行う至近接触法）」のような真の接触の純粋な音をかき消し、不協和音と否定的な感情を持ち込んでそれを覆い隠そうとしたので、非常に意図的にそうしたのだと思います。それが彼ら（注釈:闇の政府・ディープステイト、軍産複合体）の戦略でした。

そして、率直に言って、その彼らの戦略は、うまく行きました。つまり、私は講演をした時の話をよくするのですが、1994年だったと思います。ノースカロライナ州の末娘の小学校1年生のクラスで、6歳の子どもたちに話をしたときのことです。6歳の子どもからの最初の質問は、〝先生、外に出ると誘拐されて拷問されるんじゃないかと怖くないんですか？〟でした。それは1994年に6歳の子どもから出た最初の質問だったんです。つまり、ご存じのように「精神、潜在意識」はその物語によって「植民地化」されているのです。だからこそ、私は人々に言い続けているのですが、軍関係者の中にも、私たちのやっていることを支持して、それは問題ではないと思う、と言う人がいるのです。私は、ああそうだね、と答えます。それは「人間の意識」に深く刻み込まれています。

何故なら、それが「心理戦作戦」のやり方だからです。彼らはメディア、インターネット、映画業界、小売りUFO学を利用して、そのアジェンダ（目的達成に向けた議題・行動計画）を推進しています。彼らがやるべきことはただそれを始動させることだけで、あとは他の人たちがそれを引き継いで、それが何なのかも分からずに突き進んでいくのです。私は、こうした発言をしている人たちが皆、何らかの陰謀に関わっていると言っているわけではありません。彼らは物事を深く理解していないし、自分が何を言っているのかも分かっていないと思います。しかし、それは非常に大きな問題です。何故なら、それは地球外生命体の人間の意識を汚染し、人々が彼らを憎み、恐れるようになるための舞台を整えてしまったからです。人々が「戦争に賛同するため」に必要なのはまさにそれなのです。まずは「プロパガンダ」

が必要です。敵を作り出し、それを悪者として誇張し、大げさに描く必要がある。そうすれば、民衆はあなたの小さな戦争機械の後ろ盾となるでしょう。そういう「仕組み」なのです。人類の歴史を通して、あらゆる戦争で、それは何度も何度も繰り返されてきました。

さて、それに対する大きな対策は、私たちのプロジェクトの原動力と目的である「CE5（第5種接近遭遇）コンタクト」です。だからこそ、聞いている皆さんは「CE5コンタクトアプリ」を入手して練習し、グループを始める必要があるのです。というわけで、7月24日（金）、25（土）、26（日）の3日間、バージニア州シャーロッツビルの山頂にあるワイナリーを毎晩貸し切ってイベントを開催します。そして、ここは私たちがこれまで大規模なグループでの「CE5セッション」を行うために利用した中で、最も美しい場所です。約350人を収容できます。ですから、皆さんがそうしてくれることを願っています。それは次の何週間後か分からないけど、もうすぐ来ます。本当に素晴らしいことになると思います。そして、私が人々に理解してもらいたいことの一つは、たくさんのことを学ぶことになるということですが、それは大勢の人々と一緒に瞑想したり、毎晩プージャ（注釈:神聖な祈り）を行ったりすることだけでも学ぶことができます。

それから「遠隔透視」のトレーニングについて説明します。私たちは毎晩、真夜中まで星空の下に出て、「交信」を試みます。そして、これは週末に理解を深めるための本当に素晴らしい方法であり、その後、どこに住んでいても「CE5」チームのリーダーになることができるのです。ですから、聴いている皆さん全員にぜひ参加していただきたいと思います。もし直接参加できない場合は、終末を通して一般向けにウェビナーを開催する予定です。

▸質疑応答（以下一部抜粋）

エネルギー兵器の1種である「電磁パルス」は、「スカラー信号」を含み、光速よりも速く伝わります。それらは数十年前から存在し、世界中で配備されています。「ロズウェル墜落事件（1947 年7月）」も実際には、新型レーダードーム内部に搭載された初期の「電磁波戦システム」で、墜落した3機の地球外生命体の電子機器を「妨害するレーダーシステム」だったんです。
「電磁兵器システム」を使って「地球外生命体の乗り物を撃墜する」…これらは地上施設にあるものだけでなく、航空機にも搭載されていることを覚えておく必要があります。それらは、ジープやハンヴィーなどの地上車両で移動可能であり、船や航空機でも空中で使用できます。
何故なら何年も前にシャスタ山にいたときの事、シャスタ山から光る船ががこちらに向かって来たとき、空から大型の 747 型機のようなものから爆音があり、彼らはそれを撃墜しようとしていたからです。UFOはその放電の直前に消え、「指向性エネルギー兵器」が木々を通り抜け、地面に滑り込んで、私たちの目の前の森で大きな衝突がありました。私たちがいたとき、地面は 15 秒ほど揺れました。これは、シャスタ山での大規模な目撃イベントでした。
ですから、こうした能力が存在することはわかっています。だからこそ、私たちがプロトコルを実施し、地球外生命体を招待する際には、常にこの時代、この場所にとって「安全かつ適切な方法で来てください」、と言っているのです。何故なら、私たちは地球外生命体や人間の生命のさらなる損失に責任を負いたくないからです。…私たちは地球と人間と地球外生命体との関係を癒そうとしており、地球外生命体を含む罪のない人々に何か悪いことが起こらないように、それを真剣に受け止める必要があるからです。
ですので、地球外生命体とその乗り物は、完全な3D ではなく、ほとんど「アストラル体」のような、あるいはかろうじて実体化した状態で現れることが多く、非常に速く現れては消滅するのです。
さて、これらの「兵器システム」を停止させることができれば、これは大統領に具体的に要請した大統領令の一つであり、必要であればSWATチームや特殊部隊を派遣して、これらのシステムを停止させるよう要請しています。そうすれば、3Dまたはそれに近い形で現れる平和的な接触がはるかに容易になるでしょう。
地球上のあらゆる場所が、衛星やその他の技術によって「監視」されています。もしあなたがその能力

…、電子レベルで「意識とテクノロジー」の両方において持っているなら、彼らがアパッチヘリコプターのように飛んでくる理由はありません。

「量子もつれ」を扱う場合、空間と時間におけるすべての点が他の全ての点と繋がっているため、それらの位置は関係ありません。つまり、「距離」は問題ではありません。
進化するこのような「危険な場所」（注釈：地球）に、より直接的に関わっている「文明」や「種族」もあれば、より背景にいるものもあります。
私が過去36年間の「CE5コンタクト」で経験してきたことは、私たちのグループ、シニアグループ、そしてこの分野に非常にたけた人々が、「新しい種族や新しい現象、新しいもの」を紹介され続けているということです。
何故なら、私が思うに、CE5コンタクトグループがこれを開拓するリードグループであり、平和的であり、悟りを開いた、「意識の科学」を理解し、「テクノロジーと精神の間のインターフェース」を理解している人々に、しばしば地球外生命体や種族が紹介されるからです。それは基本的な条件のようなもので、あなたがそのことを理解していて、「正しい理由」で、「純粋な心と純粋な意図」をもってこれを行っているなら、彼らはあなたに興味を持つでしょう。あなたが単に利己的であったり、娯楽のためだけにやっているのではないなら―。
「CE5」の人たちの多くが見に行きたいと思っていることの一つは、シーワールドに行ってお金を払ってイルカが輪っかを飛び越えるのを見るようなことなのです。これは地球外生命体が対応していないという意味ではありません。彼らはそれが子供じみた、軽薄な目標だと分かっています。つまり、彼らは本物を探しているということですよね。「大使」になりたいと心から願う人々、そして彼らと「連絡」を取りたい人々、そして、もしそれが実現すれば、私たちのチームが発見したのは、私が知らなかった多くの「新しい文明」が次々と現れて紹介されるということです。でもそれは、私たちがリードチームだからだと思います。
しかし、一般的な運用に関して言えば、ここ（地球）は非常に「危険な場所」なので、運用が許可されている「機体数」は限られていると思います。誰もそんなことは望まないでしょうが、関わっているのは、このような「危険な場所」に「自ら志願した人たち」だと思います。特に40年代と50年代の「原子時代と核時代」の到来以来、その傾向は顕著です。だから、それは真実だと思います。
他にもたくさんの宇宙人がいると思うのですが、「主要な宇宙人や志願したり選ばれた宇宙人」は、武装していて先ず撃ってから質問するような私たちの原始的な世界に対処できるからです。残念ながら私たちはまだそういう状況にいるのです。つまり、人々は今、自分たちが「地上の楽園」に住んでいるという幻想を捨てるべきです。まだそこまで達していない、とだけ言っておきます。
そこに到達するにはやるべきことがたくさんありますが、私たちはそれをやり遂げます。でも、地球外生命体もまさにそのように考えていると思います。つまり、彼らは愚かな人たちではありません。彼らはとても頭の良い人たちです。

以上、＜https://www.youtube.com/watch?v=jjDZjBtLqm8&t=2597s＞より自動翻訳文字・音声を基に作成。（　）は翻訳時の注釈、キーワードに「（太字）」を付した。詳しくは元動画参照。

【参考リンク】
▸スティーブン・グリア博士の HP➡ https://drstevengreer.com/

▸グリア博士の YouTube➡ https://www.youtube.com/@DrStevenGreer55
Disclosure Channelyoutube.com/channel/UCEYMZAg8YGZ3bK6Dd9Fuc_Q

（日本語訳音声で試聴可）➡ https://www.youtube.com/@BestofDrStevenGreer